

第三次中期計画

令和5（2023）年度から令和9（2027）年度

学校法人 愛知産業大学

建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち
社会に貢献できる人材を育成する

ASUビジョン2027

地域とともに歩み
ユニークで力強く成長・進化する学園を創造する

- > 大学をはじめとする当学園グループ一体となって幅広い学びの選択肢を提供し、成長実感と満足が得られるキャリア形成を目指します
- > それを実現するため、学生・生徒一人ひとりに寄り添った親身なコンサルティング型の教育を実践します
- > また、こうした教育・学習の環境を十全に確保すべく、堅固な財務基盤を確保します

第三次中期計画 令和5（2023）から令和9（2027）年度

1. 第二次中長期計画の総括

第二次中長期計画においては、学生・生徒等募集力の強化に努めるとともに、「設置校のすべてが、持続的に自立可能な組織として確立している学校法人となること」を目標として、PDCAサイクルの導入により各設置校それぞれにおいて収支バランスの改善に取り組んだ。

この結果、一部の設置校において、なお赤字が残存したものの、第二次中長期計画スタート時点と比較すると、各設置校の収支バランスは、相応の改善を見ており、学園全体としてみれば、令和元（2019）年度以降黒字に転換し、財務基盤はかなり改善を見た。

2. 第三次中期計画を巡る環境認識

- インフォメーションテクノロジーが飛躍的に発展する中、新型コロナウイルス問題の発生により、学校教育に対するニーズ、教育・学習手法の在り方、情報管理の仕組等が大きく変化しつつあり、その方向性を見極めつつ、適確に対応していくことが喫緊の課題。
- コンピテンシー（資質・能力）に基づく教育課程改革が進む中、「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたのか」への転換が必要。
- この間、少子化の流れは一段と強まり、令和4（2022）年度は112万人だった18歳人口が令和22（2040）年には80万人に減少することを前提に、規模の適正化や多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりが重要。
- 加えて、人生100年時代において、幼児教育から小・中・高等学校教育、高等教育、さらには社会人の学び直しに至るまで、生涯を通じて切れ目なく、いつでも有用なスキルや知識、必要な能力が身に付けられる学び直しの場としての学校への対応も必要。
- また、学校経営の透明化、自己管理機能の強化に対する社会的要請はさらに強まる方向。

3. 学園グループの戦略アイテム

当学園グループは、「ASUビジョン2027」を実現するため、財務基盤を一層堅固なものにし、戦略的投資余力の確保に努めるとともに、以下の諸点をグループ共通の戦略アイテムとして位置付ける

- 1 DX対応をキーワードとして、教育の重点分野、教育手法等の点検・改善を図るとともに、組織内情報管理システムの整備も検討する
- 2 リカレント教育需要への増大をも踏まえた通信教育の拡充・強化に努める
- 3 安心・安全な環境づくりを念頭におき、将来展望を踏まえた校舎・設備等の改修・修繕計画の策定やBCPの見直しを進める
- 4 組織運営面においては、働き方改革の流れを踏まえ、魅力的な労働環境づくりを目指した方策を検討するとともに、ハラスメント防止を含め、コンプライアンス体制の一層の強化に取り組む
- 5 透明かつ自律的な学園運営を確保するため、ガバナンス体制についても教育界等における議論の帰趨を踏まえつつ、必要に応じ、チェック機能の強化に努める

4. 各設置校の中期計画

■ 愛知産業大学・愛知産業大学短期大学

豊かな森に囲まれた岡崎キャンパス、魅力的で多様な学びの奥深さを「**学びの森**」として表現し、DXとデザインを活用した、良質で学びやすい大学をめざします。「学生ファースト」を掲げ、たくましく、頼もしい、社会に貢献できる人材育成の取り組みを行います。対象とするステークホルダーを、「通学課程」では地元三河により深く根差し、「通信教育部」ではDX技術を活かして全国に広く求めます。テーマの「**Coevolution（共進化）**」は、学生と教職員、地域・企業・高校・専門学校と大学、テクノロジーと教育など、それぞれの相互作用を通して、めざす姿へ、共に成長、発展することを意味しています。

（1）学生ファーストの実現

- 1-1 学生の総合的満足、意欲向上に向けた取り組み
- 1-2 学力向上に向けた取り組み
- 1-3 アクティブラーニングの適切な導入等、教育の質の改善
- 1-4 資格取得支援、コンペ・競技会への参加等、パワーアッププログラムの実施
- 1-5 キャリア支援の充実、希望進路への就職、企業開拓
- 1-6 基礎学力不足学生・経済困難学生・留学生等へのサポート
- 1-7 学生アンケート手法の精査・改善の仕組みづくりと教育サービスへの反映
- 1-8 心身の健康への取り組み、健康的な食生活の推進
- 1-9 本学支援による奨学金制度の継続的な改善
- 1-10 たくましく、頼もしい、社会に貢献できる人材育成の取り組み

（2）DXを活用した教育・研究の質的向上の実現

- 2-1 オンライン教育システム及びコンテンツの質的強化、支援体制の充実
- 2-2 学生、教職員へのITサポート体制の強化
- 2-3 ICT環境の整備・強化
- 2-4 大学HPの整備（在学生、教職員の情報インフラとして有効活用）
- 2-5 研究活動の新領域への展開
- 2-6 カリキュラム改定による学び内容の充実
- 2-7 学部学科・通学通信を横断する取り組みの強化

4. 各設置校の中期計画

（3）ステークホルダーとの「共進化」の実現

- 3-1 姉妹校との連携推進
- 3-2 高大連携の推進・拡大
- 3-3 併修専門学校の推進・拡大
- 3-4 同窓会との連携
- 3-5 岡崎市・地域ステークホルダーとの連携

（4）「学びの森」をコンセプトとした持続可能なキャンパスの実現

- 4-1 学長を中心とした教学マネジメント組織の改革
- 4-2 建学の精神、3ポリシーをふまえた各学科の教育戦略の策定
- 4-3 新たなブランドマネジメント
- 4-4 広報の強化
- 4-5 環境に配慮した美しいキャンパス形成
- 4-6 施設の有効活用とバリアフリー化、BCP策定

（5）「魅力的な労働環境」と「強靱な財政基盤」の実現

- 5-1 働きやすい仕組みづくり
- 5-2 教職員構成の適正化とリスクリングの推進
- 5-3 風通しの良い、新しい組織風土づくり
- 5-4 設置校間の情報共有と協働事業推進の枠組みづくり
- 5-5 強靱な財政基盤の実現

4. 各設置校の中期計画

■学部（学科）・大学院の計画

（1）学部（通学部）

安定的な学生確保、女子学生比率の向上をめざす。魅力的な学びの実現、資格取得を促進する

○建築学科

木造技術、BIM、インテリア、エクステリア等への注力、関連資格取得の強化、技能五輪への挑戦、通信教育部との連携

○スマートデザイン学科

高度情報テクノロジー、視覚情報テクノロジー、プロダクトへの注力、学び領域の拡張、就職先の開拓と充実

○総合経営学科

地域や企業との連携、スポーツマネジメントへの注力、情報・ITによる問題解決能力の向上、関連資格取得の強化

（2）学部（通信教育部）

競争力ある、より質を高めた通信教育に向けて、教育内容の整備、インターネットコンテンツ、会場を整備する

○建築学科

カリキュラムの全面改定、通学部との連携科目の設定、オンラインシステムの推進、スクーリング会場の増設・リニューアル、授業評価・教育環境に関する学生アンケートに基づく改善

（3）短期大学

現有の教育資源、資産も活用した、学びやすく有意義な、新しい通信教育の枠組みを構想する

○国際コミュニケーション学科/専攻科

総合的な将来計画の策定、現行カリキュラムの改善運用、学生サポートの改善、総合的な教育コンテンツの整備・活用、IT環境の整備と有効な実施、対面サポートの充実

（4）大学院

高度な研究教育の場の提供、進学者のみならず社会人も学びやすい教育の仕組みをつくり、安定的に学生を確保する

○造形学研究科

授業のオンライン化への移行、改組を含む総合的な将来計画の策定、現行カリキュラムの改定、学生サポートの充実、IT環境の整備

4. 各設置校の中期計画

■ E L I Cビジネス&公務員専門学校

（1）方針

建学の精神、A S Uビジョン2027に基づき、学生一人ひとりが公務員合格・資格取得、満足な進路、大人のマナーを身に着ける専門学校を目指す

（2）学生が成長実感と満足が得られる学校

- 2-1 公務員合格率、基本情報技術者試験合格率、日本語能力試験N 2の卒業時合格率が、各々70%以上
- 2-2 コンピテンシー（資質・能力）に基づく、習熟度別学習、ICTの活用など、個々の教育の充実を図る
- 2-3 マネジメントの視点を取り入れ、カリキュラムなど柔軟な教育体制の構築

（3）DX対応などのニーズを的確に捉えた、進化した教育方法、力強い教育体制の構築

- 3-1 プロジェクトチームを編成し、P D C Aサイクルを効率よく回しながらDX化を推進する
- 3-2 パソコン・タブレットの購入、学生1人1台方式について、検討・改善する
- 3-3 DX、S D G s、オンライン教育など、社会のニーズに対応した教育内容を構築する

（4）安定した財政基盤の構築と労働環境の整備を進める

- 3-1 奨学金や学費の適正化を図る
- 3-2 姉妹校の単位制高校との連携、3・4年課程の設置など、学科・コースの再編を検討し学生募集力を強化する
- 3-3 バランスの取れた年齢構成、教育分野を考慮した組織を作るとともに、メンタルヘルスなどにも適切に対応する

4. 各設置校の中期計画

■ 三河歯科衛生専門学校

（1）方針

国家資格合格100%、就職率100%を維持継続したブランド力のある学校

（2）財務基盤の安定

- 2-1 現代に見合った指導をし、学生に寄り添い退学者0名を目指す
- 2-2 受験者数増加を継続し、4～5名程度の入学定員増を検討する

（3）DX対応を含めた教育支援の拡充

- 3-1 スクールカウンセラーの導入を検討し、学生生活の不安を解消することによって退学者0名に繋げる
- 3-2 設置から7年が経過している学生用P C 43台を入れ替えoffice365の導入についても検討する
- 3-3 数年をかけてWi-Fi環境を図書館・各教室へ段階的に設置する計画をし、学生個人で所有するPCを利用できるようにすることにより、学校所有のPCを廃止する方向で検討する

（4）施設設備等教育環境の整備・充実

- 4-1 計画的な予算編成
開校から27年が経過し経年劣化が見受けられるため、「施設の保守、改修等の中期計画」を策定し計画的な修繕を行う
- 4-2 BCP（事業継続計画）の策定

4. 各設置校の中期計画

■ 名古屋美容専門学校

（1）方針

- 1-1 美容業界動向、18歳人口動向、目標収支差額を確認して、令和7年4月からの定員増を実現する
- 1-2 引き続き収支バランスの改善に努めながら、DX対応人材を育成し、学内でのICT化を進展させる
- 1-3 定型業務のトータルコスト低減、レギュラー教育の質的アップに取り組み、ブランド力向上に繋げる

（2）DXに対応した教育システムの構築と情報管理システムの整備を進める

- 2-1 VR教材あるいはICTツールなどを活用して学生個々のレベルに応じた学習環境を整備する
- 2-2 学生募集コンテンツの映像化・オンライン化を進めるとともに、本校の学校生活、イベント、作品などを、DXツールを活用して社会や高校生に伝える
- 2-3 業務プロセス改革・改善を通じて学内情報管理システムを整備する

（3）美容師養成教育の充実とブランド樹立に取り組む

- 3-1 常に「定員確保・高い国試合格率・有名サロンへの就職・他校を凌駕するコンテスト成果・低い退学率」のレギュラー教育項目について安定した数値を出す
- 3-2 学生の就職支援システムを充実し、サロンとの結びつきを強化する
- 3-3 美容業界の第一線で活躍できる人材育成を意図した教育を実践する

（4）財政基盤の充実と労働環境の整備を進める

- 4-1 各項目の支出の適正化を図るとともに、時代に即した奨学金を検討する
- 4-2 適正な労働時間管理と美容分野に相応しい学内環境を整備する
- 4-3 メンタルヘルス、ハラスメント防止、コンプライアンスについては時代に合わせて適切に対応をする

4. 各設置校の中期計画

■ 名古屋ブライダルビューティー専門学校

（1）方針

- 1-1 令和6年4月からの募集停止に備えて、誠意を持って関係者へ説明し、悪影響が小さくなるよう努める
- 1-2 最後まで在校生に対してカリキュラムポリシーに沿った教育の提供と成果が出る学校運営をする
- 1-3 不測の事態に備えたリスクマネジメントに努める

（2）DXに対応した教育システムの構築と情報管理システムの整備を進める

- 2-1 ICTツールを活用した学生個々のレベルに応じた学習環境を整備する
- 2-2 業務プロセス改革・改善を通じて学内情報管理システムを整備する
- 2-3 SNSによる適正な情報の受発信、情報整理についての学習を導入する

（3）ブライダル教育の充実と業界との関係強化に取り組む

- 3-1 「年次目標の退学率・資格取得率・希望職種への就職率・学生満足度」をレギュラー教育項目として安定した数値を出す
- 3-2 学生の就職支援システムを充実し、就職先との関係を強化する
- 3-3 本校教育と教員の質の向上に向けて、教育知見や資料を共有で活用できる仕掛けを作る

（4）財政基盤の充実と労働環境の整備を進める

- 4-1 各項目の支出の適正化を図るとともに、時代に即した奨学金を検討する
- 4-2 適正な労働時間管理とブライダル分野に相応しい学内環境を整備する
- 4-3 メンタルヘルス、ハラスメント防止、コンプライアンスについては時代に合わせて適切に対応をする

4. 各設置校の中期計画

■ 愛知産業大学工業高等学校

■ 全日制

(1) 方針

A S Uビジョン2027に基づき、ジェンダーフリーと少子化、ダイバーシティに対応した教育環境を構築し、生徒一人ひとりがその能力を最大限発揮できる機会を提供することを目的とする

(2) 学校改革（School Revolution）

普通科の設置、男女共学化、校名変更

(3) D X化の推進

3-1 デジタルアーカイブ化の推進

3-2 R P A 検討と導入推進

3-3 I C T 教育に関する教員研修の推進

(4) 教育支援の拡充

4-1 スクールポリシーに基づく評価・改善を計画的に実施

4-2 資格取得に関する支援、指導体制の充実

4-3 就労意識向上の方策

(5) 学生・生徒等募集力の強化

5-1 体験入学、入部、入学説明会の内容充実

5-2 学内外での課題研究等の積極的な情報発信

5-3 部活動の再編成及び強化指定部の見直し

(6) 設置校間の接続

積極的な人事交流の推進

4. 各設置校の中期計画

（7）地域・社会貢献

- 7-1 課題研究による地域貢献（資格の実務的な利用）
- 7-2 新たな求人開拓（女子生徒対策含む）
- 7-3 地域防災・福祉活動などへの積極的な参加

（8）施設・設備等教育環境の整備・充実

- 8-1 施設設備（実習機器設備含む）の保守点検と充実の検討
- 8-2 老朽校舎の整備（解体を含む）と活用の検討
- 8-3 B C P 計画（事業継続計画）の策定と運用

（9）働き方改革・教員研修体制

- 9-1 勤務時間割振りの明確化
- 9-2 コンプライアンスコードの策定と実施（定期的な不祥事防止チェックリストの実施）
- 9-3 計画的な現職研修の実施
- 9-4 教員評価シートの導入

■通信制

（1）学園グループを利用した戦略の強化（他校との差別化を図る）

- 1-1 姉妹校一貫教育プログラムコースの設置
- 1-2 全日制資格取得講座との接続

（2）工業高校通信制・三河高校通信制の業務等の共通化・共有化を図る

4. 各設置校の中期計画

■ 愛知産業大学三河高等学校

■ 全日制

（1）方針

- 1-1 良い人が集まる学校づくり
- 1-2 スクールミッション・スクールポリシーの実現
- 1-3 10年先を見据え、教職員育成ができる仕組みの構築

（2）生徒募集力の強化

- 2-1 広報媒体の見直し検討と中学校・塾との強固な関係性の継続
- 2-2 体験入学・入試説明会・相談会の充実
- 2-3 授業料軽減周知と奨学金制度の検証と見直し

（3）財政基盤と管理運営の強化・安定

収支予測を行い、分析し、安定した財政運営に向けた施策を推進

（4）DXの推進

- 4-1 ICT環境整備
- 4-2 先端技術を用いて教育ビッグデータを収集・分析し、生徒一人ひとりに合わせた個別の最適な学びの実現

（5）教育支援の拡充

- 5-1 進学クラスの教員による補習授業、朝学・昼学等の実施と資格取得奨励
- 5-2 教職員研修の実施
- 5-3 魅力ある授業の実現のため、教育課程(教育内容)や学科名称の変更検討

（6）施設設備等教育環境の整備・充実

- 6-1 計画的な予算編成(重点項目：ICT教育環境整備)
- 6-2 三河高校のキャンパス整備・校舎老朽化への対応策を実行するため、愛知産業大学の建築関係専門家や女子生徒増加を促進するため、女性の設計士等の協力、建替、改修、移転を含めた「キャンパス整備検討委員会」を設置
- 6-3 南海トラフ巨大地震等による被害を想定したBCPの検討

4. 各設置校の中期計画

（7）設置校間の交流・接続

- 7-1 姉妹校への進学を奨励
- 7-2 工業高校との全日制と通信制間での教職員の適正配置
- 7-3 デジタル技術を駆使した授業を積極的に活用した姉妹校との交流検討

■通信制

（1）方針

- 1-1 面倒見のいい通信制高校
- 1-2 教育活動の充実および学校行事のさらなる充実を図るため教職員の適正配置

（2）生徒募集力の強化

- 2-1 学校訪問や学校説明会の充実検討およびマスメディアを利用した広報活動の検討
- 2-2 全日制課程教職員との人事異動などによる、全日制課程と通信制課程との強固な連携と行政との連携強化

（3）DXの推進

- 3-1 ICT環境整備
- 3-2 ICTを効果的に利活用した指導の充実

（4）教育支援の拡充

- 4-1 大学・専門学校等や企業、ハローワーク等との連携促進の検討
- 4-2 スクールカウンセラー等の充実

（5）施設設備等教育環境の整備・充実

- 5-1 ICT環境整備など教育施設拡充により、さらなる生徒数確保につなげる
- 5-2 耐震設備の充実と防災教育の徹底

（6）設置校間の交流・接続

- 6-1 姉妹校との連携による体験学習を引き続き継続し、進学者増に結び付ける
- 6-2 工業高校通信制と本校通信制の技能連携校業務等の共通化・共有化を検討

4. 各設置校の中期計画

■ 島田幼稚園

- (1) 天白区・緑区の出生率および保護者のニーズを確認し、本園の適正規模を見極め、満3歳児クラスの受け入れを図るとともに「施設給付を受ける幼稚園」への移行も同時に検討する
- (2) IT・グローバル化が急激に進む中、子ども達が社会にでる20年後を見据え、教育活動、行事を通じて、人間形成の基本となる健康な身体、主体性や他者への思いやりの心等の「生きる力」の育成に取り組む
- (3) 安心・安全と子どもや保護者への愛情を忘れず、AIやIoTといった最新のテクノロジーを活用した保育関連業務のDX化の先進的な事例を取り入れていく
- (4) 50年を超える園舎の老朽化に備え、本園の将来の在り方を考えた園舎の改修計画を検討するとともに、施設設備修繕計画の見直しを行う
- (5) 園舎の建て替え計画は、近隣の出生率・園児数を踏まえ引き続き研究する
- (6) 慢性的に行われている園業務を見直し、改善（事務業務の効率化）に取り組む
- (7) 教員の出産からの復職体制を整え、担任制だけではなく担当制も視野に入れ、教員配置を検討していく
- (8) 各法令、法人本部、所属団体の規則に基づき園運営を行い、法人本部と連携を図りながら改正への対応を行っていく